



題字:チャレンジ・コヤリバ

新しい年度がスタートしました。少しずつ夏が準備を始めるこのごろですが、今号では「春」をテーマに新年から年度初めにかけての各事業所の様子や被災地への災害派遣、前年度採用スタッフの今など情報を盛りだくさんでお届けします。

令和5年度採用スタッフの今

1年経ってみて変わったこと。
利用者とのエピソード。

巽悠真

入社して間もない頃は私に対して好奇心を持って接してくださる方がいた半面、話しかけてもなかなか応じてくださらない方もいました。そんな状況にどうしたらいいだろうと戸惑いましたが、いろいろ工夫する中で、それぞれの利用者に応じた話題の提供や、適切な距離感を徐々に理解し、今では笑顔で話しかけてくださるようになりました。

関口鈴

最初は言葉でのコミュニケーションが難しい利用者の意思などがあまり分かりませんでした。ですが、1年間利用者に関わる中で小さな表情の変化で「これが好きなのか」や「こっちの活動の方が楽しそうだな」ということが少しずつ分かるようになってきました。会話の幅も広がり、毎日楽しく利用者に関わることができています。

この1年で私にとってたくさんの方との出会いがありました。人と人が接する時間の大切さを学ぶことができました。グループホームにも何度か勤務させていただき、日中以外を一緒に過ごすことで、より利用者との信頼関係を築けるような気がしました。これからも一緒に素晴らしい時間を過ごしたいと思っています。

中島忠男

オールドルーキーとして入りましたが、利用者みなさまが、気軽に声をかけてくださることや周りのスタッフの協力にて、安心して支援や業務に取り組むことができました。年齢なのか、忘れっぽく、まだまだ未熟な点がありますが、“いつも笑顔で”いられるように2年目に向けて取り組んでいこうと思います。

中川孝志

この1年を振り返ると本当にあっという間でした。楽しいことも大変だったことも多くありましたが、そんなときでも利用者やご家族や周囲のスタッフが支え励ましてくださいました。どれも楽しい思い出でいっぱいです。これからも毎日笑って仕事をして、周りの雰囲気を楽しめるよう頑張ります。

足立美結

福祉は学校で勉強してきたつもりでしたが実際の支援現場では対応に追われることが多く、気が付けば利用者ご自身でスプーンを使ってご飯を食べられる方に対して私がスプーンで口まで運んでいることがありました。支援はスタッフが代わりにすることではなく、ご本人のできることを伸ばすということを実際の支援を通して実践できたことが1番の成長だと感じています。

谷川朱音

谷口菜々子

入社してすぐの頃は朝に挨拶しても会釈されるだけだった利用者が、毎日続けることで「おはようございます」と言葉で返してくださるようになり、とても嬉しい気持ちになりました。利用者にあわせて言葉かけやハイタッチなどを工夫し、今ではすれ違うと利用者の方から会釈やハイタッチ、そしてたくさん話をさせていただきます。

清流園



「すくすくピオラ」

毎日水をあげてすくすく育っています

塚口福成園



「春色のマスク」

利用者が「買ったの」と教えてくださり、桜模様のマスクから春を感じました!

杭瀬福成園



「春見つけた」

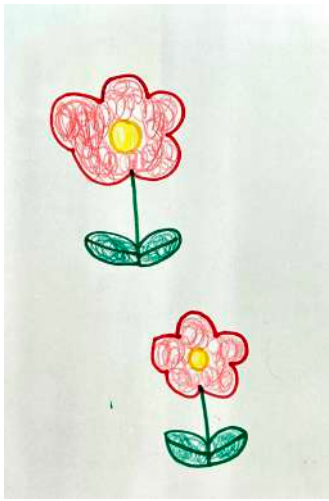
散歩で利用者と一緒に春探し、綺麗に咲いた花を見つけました。

あいあい



「梅の花」

利用者送迎の途中の道にある梅の花、今年もきれいに咲いていました。



タイトル:春の花
作者:川口晃寛【清流園】



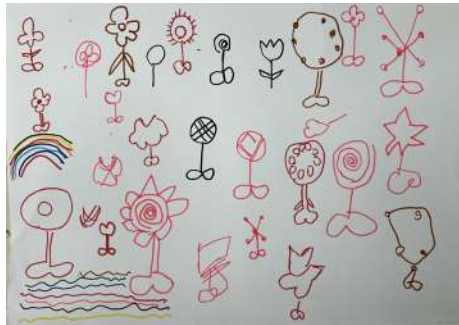
タイトル:春
作者:Bグループ【杭瀬福成園】



タイトル:Spring Flower
作者:星班【サポートセンターまつば】



タイトル:あいあいみなさんのお花畑
作者:あいあい利用者【あいあい】



タイトル:お花の遊園地
作者:西角朋子【塚口福成園】



タイトル:たくさんの花
作者:コヤリバ利用者【チャレンジ・コヤリバ】

法人スタッフ災害派遣について

【清流園:上田航太】

石川県の1.5次避難所で介護チームとして、夜勤業務に従事してきました。保健師・看護師・県の職員や県外の都道府県からきているスタッフやボランティアと連携して、食事の配膳・トイレ介助・見守り・お困りごとの聴き取り・感染者対応など避難者の不安や負担を少しでも軽減できればと思いながら従事しました。これからも福成会としてさまざまな形で協力、応援していきます。



【杭瀬福成園:芥田首直樹】

東日本大震災の惨状を見聞きする中で、いつか有事の際に現地へボランティアに行き、被災されている方のお役に立ちたいと思っていました。そこで、法人内で災害派遣の募集があり応募しました。いしかわ総合スポーツセンターの1.5次避難所で、夜間に5~10名のチームを組み高齢者の身のケアや被災者の困りごとの聴き取りなどをおこないました。これからも福成会にできること、福成会だからできることを続けてまいります。



チャレンジ・コヤリバ



「門出」

自立訓練を卒業され、それぞれ新しい進路へ進んでいきます。

サポートセンターまつば



「桜の木の下で」

利用者と近くの川沿いに行きました。桜と一緒に笑顔で記念撮影をしました。

ショートステイぶちるぼ



「春の献立」

豆ご飯、季節の天ぷら、若竹煮、梅そうめん。お盆の上の春、満開。

共同生活援助



「雪見?花見?」

近くの公園に散歩に行った時にユキヤナギが満開で花壇が真っ白でした。

各事業所からの「ふふふ」

清流園

暖かくなり、散歩に行くことも増えました。川沿いの道を歩いていると、数匹の亀を発見。スタッフが「亀がいますよ」と指をさすと「かわいいね」「あっちにもいる」と利用者が笑顔を見せてくださいました。

杭瀬福成園

昨年度末のできごと、余暇時間に席で過ごされているAさんが「咲いた、咲いた」と軽やかにチューリップの歌を口ずさんでおられました。気候よりも一足先にAさんから春の訪れを教えていただき、年度末でバタバタしているスタッフの心も温かくなりました。

あいあい

野球の話をよくされるBさん。朝一番の会話で「センバツ見に甲子園に行くから〇日休むわな〜。」と冗談でお話された時に「あ〜春やな」と感じます。分場では、毎年恒例の会話となっており風物詩のようなやり取りの1つです。

サポートセンターまつば

3月にプロ野球が開幕しました。阪神タイガースが好きな利用者は「昨日は阪神が勝ったで!」と笑顔で支援員や運転手に話してくださいました。朝からプロ野球の話で盛り上がり、春を感じた1日となりました。

塚口福成園

春は出会いと別れの季節ですね。喫茶はあぶらんどでも、毎年常連さんから「実は転勤することになってしまったので…」と寂しいお話を伺います。でも、出会いも毎年きちんとやります。新たな常連さんも増えて、新しいお客さまとの出会いに今年もふふふとなりました。

チャレンジ・コヤリバ

就労定着支援を利用してCさん。自立のために一人暮らしをしたいと言われており、担当者会議でお母さんのあと押しもあり、一歩前進。今後は物件を探すために不動産会社に行ってきます。

尼崎市障害者就労・生活支援センターみのり

ジョブコーチ支援(就職後間もない方に対する職場でのサポートや働き続けるための支援)の依頼や調整が増えてきました。「ぼちぼち新卒さんの支援の時期だ」と、仕事で春を感じる今日この頃です。

ショートステイぷちるぼ

まだ冬の寒さの残る3月、天気の良い日の送迎車内はぽかぽか春の気分。うとうと気持ちよさそうな利用者越しに、信号待ちの車窓いっぱい早咲きの桜が満開。季節は冬から春へとバトンタッチしようとしていました。

共同生活援助

昨年秋から休日の外出を再開したお笑い好きのDさん。春頃になんばランド花月に行くという目標を持って近場の散歩やランチからスタート。先日ついに念願の新喜劇のチケットをゲットし、とても楽しみにされています。

ことのは

ある利用者の新生活をサポートする場面のできごと。グループホームの見学と一緒にいった時、居室にあるベッドの上で横になりゴロゴロ。気が早い行動に、思わず「まだですよ!!」とツッコミを入れたくなった「ふふふ」な一コマでした。

総務部

正月前に3人がかりで、枯れた雑草や落ち葉などをきれいにした総務の庭ですが、2月の節分を過ぎた頃に小さな緑色がチラホラ。気温はまだまだ寒いのに暦どおり春が近づいていると感じました。この号が発信されるころには、庭が一面緑色になっています。「今年も草抜き大変やなあ。」



サポーター

福成会の募集

みなさまの「思い」や「優しさ」が、利用者の「笑顔」と「安心」をつくります。

福成会では、障害者福祉のより一層の充実のため、個人、法人、団体のみなさまからの寄附金の受け付けをおこなっております。サポーターからの寄附金を財源の一部として、みなさまの思いを有意義に活かしていきたいと考えています。たくさんのサポートを心よりお願い申し上げます。

① みなさまからのあたたかなサポートは、各事業所の備品購入や修繕、イベントの開催、車両や介護機器の購入など、利用者が笑顔で安心して過ごせるための環境整備や持続可能な法人経営のためにつかせていただきます。

② 直接現金でのサポート以外に、オンラインサポート(クレジットカード決済)が可能となりました。ご負担の少ない低額(500円〜)を毎月サポートしていただく方法も準備しております。



※また、福成会へのサポート(寄附)については、寄附金控除を受けることができます。詳しくは福成会ホームページにある「サポーター募集」をご覧ください。

編集後記

今号で紹介した災害派遣については、HPでも詳しく掲載しております。ぜひご覧ください。次号は秋の発行予定です。夏から秋にかけての事業所の様子や出来事、福成会の最新情報などを発信させていただきます。広報誌を通して2024年の季節を一緒に感じていただければと思います。

